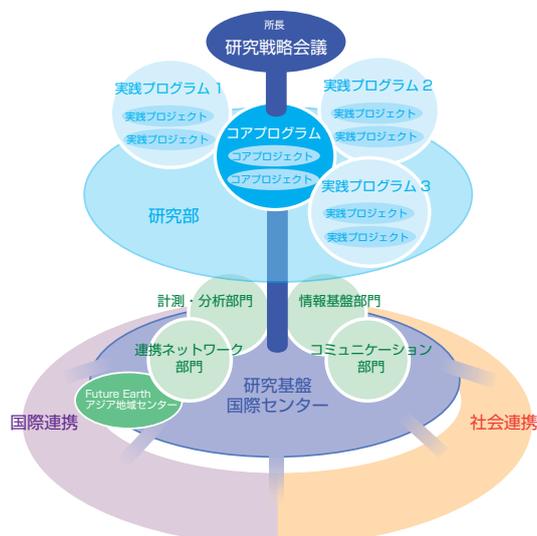
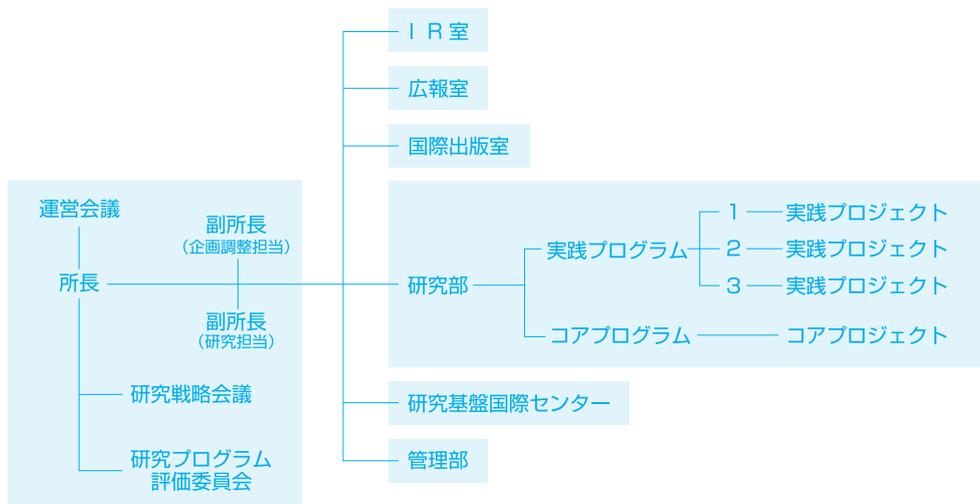


地球研とは

地球研は課題解決をめざす研究を推進するため、「総合地球環境学のアジアにおける国際拠点」として、第3期中期目標・中期計画の重点目標・計画を掲げています。プログラム-プロジェクト制を採用し、研究部、研究基盤国際センター（以下「センター」）に加え、新たに、IR室、広報室、2018年度からは国際出版室を設置しています。研究部には地球研の研究の中心である研究プロジェクトが所属し、それぞれのプログラム-プロジェクトは所内外の研究成果を有機的に統合することにより、地球研のミッションと重点目標を達成するための総合地球環境学の構築を先導します。センターはプログラムにおける研究の基盤を支えつつ、地球研と社会との双方向での連携を推進し、同時に、人材育成を含む研究教育基盤情報の拠点を形成します。

地球研全体の研究推進の方針は、所長、副所長、プログラムディレクターおよびセンター長他からなる研究戦略会議で決定し、また、それぞれのプログラム-プロジェクトの自主性を重んじつつ、国内外の研究者などで構成される研究プログラム評価委員会（External Research-Evaluation Committee）により、毎年プログラム-プロジェクトを評価し、結果を研究内容の改善につなげています。さらに、すべての研究プロジェクトが進捗状況や今後の計画について発表し、相互の批評とコメントを受けて研究内容を深める場として、研究審査・報告会を毎年開催しています。



第3期中期目標・中期計画における地球研の研究体制の図

プログラム－プロジェクト制について

地球研では、いくつかの研究プロジェクトをプログラムで束ねる「プログラム－プロジェクト制」によって、既存の学問分野や領域を超えた、総合的な研究の展開を図っています。

1. プログラム

プログラムは、実践プログラムとコアプログラムから構成され、プログラムの下には複数の研究プロジェクトがあります。研究プロジェクトは、プログラムごとに設定された重点課題に沿って研究を実施します。

実践プログラム

実践プログラムは、第3期中期目標・中期計画で重点的に取り上げた地球環境問題の解決に向けた研究を進めるプログラムです。それぞれの課題に対し、人々の意識・価値観や社会の具体的なあり方の転換などの選択肢を、社会における協働実践を通じて構築・提示します。

実践プログラム1 環境変動に柔軟に対処しうる社会への転換

人間活動による環境変動（地球温暖化、大気汚染などを含む）と自然災害に、柔軟に対処しうる社会への転換を図るため、具体的な選択肢を提案します。

実践プログラム2 多様な資源の公正な利用と管理

水資源・生態資源を含む多様な資源の公正な利用と最適な管理、賢明なガバナンスを実現するため、資源の生産・流通・消費にかかわる多様な利害関係者に対して、トレードオフを踏まえた多面的な選択肢を提案します。

実践プログラム3 豊かさの向上を実現する生活圏の構築

暮らしの場、さらには、社会・文化・資源・生態環境との相互連環の場としての生活圏の概念を再構築し、都市域や農山漁村域など多様な生活圏相互の連環を解明しつつ、それらの生活圏のさまざまな利害関係者とともに、直面する諸問題の解決や生活圏の持続可能な未来像を描き、その実現の可能性を探ります。

コアプログラム

コアプログラムは、実践プロジェクトと緊密に連携し、社会との協働による地球環境問題の解決のための横断的な理論・方法論を確立します。第3期中期目標・中期計画においては、個別の課題や分野に限定されず、さまざまな地球環境問題に適用が可能であり、総合地球環境学としての基礎と汎用性を持った、持続可能な社会の構築に向けた地球環境研究に広く適用可能な概念や体系的な方法論の確立につながる研究を進めます。コアプログラムでは、コアプロジェクトの研究成果が地球環境問題の解決をめざす国内外の研究機関・研究者や社会の多様な利害関係者と共有され、地球環境問題の解決に向けて真に有効な方法論となっていくことをめざします。

2. プロジェクト

実践プロジェクト（個別連携型および機関連携型）とコアプロジェクトは地球研内外の評価を経ながら研究を積み重ねていきます。IS（インキュベーション研究 Incubation Studies、実践プロジェクトのみ）、FS（予備研究 Feasibility Studies）、PR（プレリサーチ Pre-Research、実践プロジェクトのみ）、FR（フルリサーチ Full Research）という段階を通じて、研究内容を深化させ、練り上げていきます。

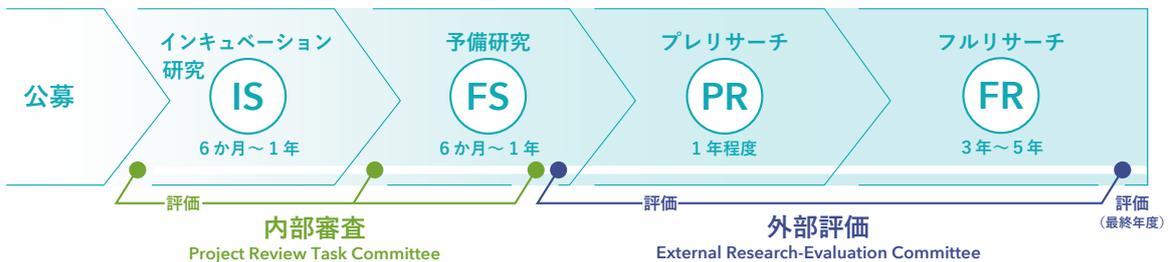
実践プロジェクト

個別連携型

個人または少人数の研究者グループから、実践プログラムの趣旨に沿った独創的な研究のアイデアを広く公募し実施する研究プロジェクト

機関連携型

地球研と大学・研究機関などとの協定のもとで、機関同士の連携による共同研究として、実践プログラムの趣旨に沿った研究を公募し実施する研究プロジェクト



コアプロジェクト

個人または少人数の研究者グループもしくは地球研と大学・研究機関などとの連携による共同研究として、コアプログラムの趣旨に沿った研究アイデアを広く公募し実施する研究プロジェクト







RIHN Research Project Field Sites



写真/上段左から 田中 奈保子 (石器を探して岩だらけの丘を登る・オマーン)、寺本 瞬 (井戸のある生活・フィリピン)、岸本 紗也加 (子どもがなにかをしゃぶりながら私に近づいてきた・モンゴル)、
本田 尚美 (山形県遊佐町釜磯海岸にて24時間連続モニタリング中・日本)



実践プログラム 1：環境変動に柔軟に対処しうる社会への転換

高分解能古気候学と歴史・考古学の連携による気候変動に強い社会システムの探索

主なフィールド：日本

熱帯泥炭地域社会再生に向けた国際的研究ハブの構築と未来可能性への地域将来像の提案

主なフィールド：インドネシア、マレーシア

人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）の評価と社会実装

主なフィールド：日本（福井県、滋賀県、千葉県）

実践プログラム 2：多様な資源の公正な利用と管理

生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会－生態システムの健全性

主なフィールド：日本（琵琶湖流域）、フィリピン（ラグナ湖流域）

実践プログラム 3：豊かさの向上を実現する生活圏の構築

持続可能な食の消費と生産を実現するライフワールドの構築－食農体系の転換にむけて

主なフィールド：日本、タイ、ブータン、中国

サニテーション価値連鎖の提案－地域のヒトによりそうサニテーションのデザイン

主なフィールド：ザンビア、ブルキナファソ、インドネシア、日本（北海道石狩川流域）

コアプログラム

環境研究における同位体を用いた環境トレーサビリティ手法の提案と有効性の検証

主なフィールド：日本（福井県大野市、愛媛県西条市、岩手県上閉伊郡大槌町、山梨県南都留郡忍野村、兵庫県千種川流域、滋賀県）、フィリピン

環境社会課題のオープンチームサイエンスにおける情報非対称性の軽減

● 主なフィールド：日本（滋賀県琵琶湖一帯、北海道石狩川流域、岡山県吉備地域）、オマーン

